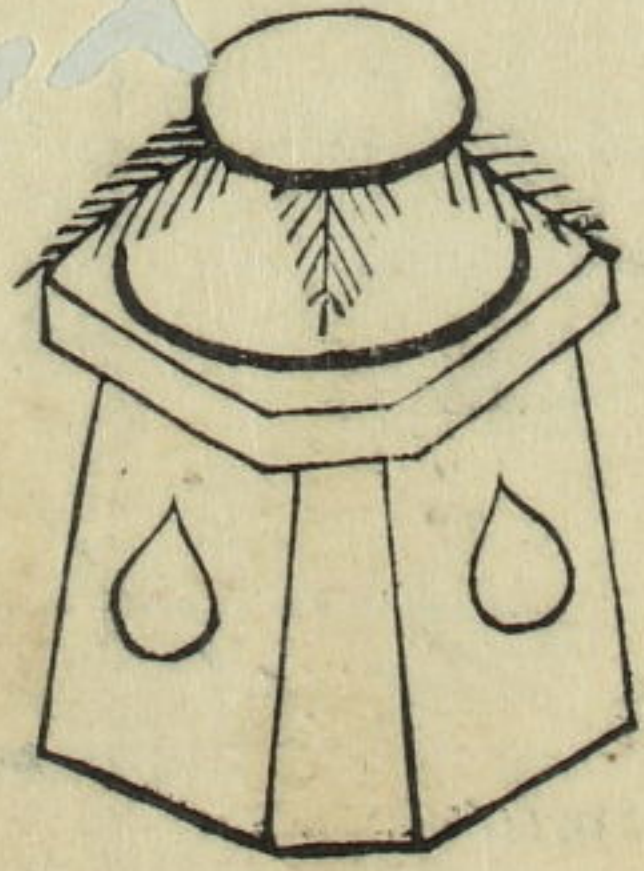


奉獻耳徳神



松島宮の
奉納

大判紙

香餅の
巻紙



عالم
کتابخانه
مخطوطات
موسسه
تاریخ و
ادبیات
ایران

مخطوطات
موسسه
تاریخ و
ادبیات
ایران
کتابخانه
مخطوطات
موسسه
تاریخ و
ادبیات
ایران

کتابخانه
مخطوطات
موسسه
تاریخ و
ادبیات
ایران

寶永四年丁亥歲旦

子ナラフブミ 法橋 不角

角馮

紅華

全 世俗に流はるるにて

姥をとりて 一にむらけりめ 五

庸角

好角

全

神一ノ棚お移り 十一年の 全角

錦角

不秋

全

包解り考よきらさで 筒井筒 好角

不秋

綿角

五 浮得る臣ハ水其片ハ

五

不角

舍角

全

牝をたす先 中々 卯ん牛の角 庸角

好角

不角

歯同よむせせとていひて喋

角

琴の流のはれは位ハ教

角

琴の流と喋るは教師ハあひ

角

五

竹保非れ衣行 戯りて浪海と

不秋

遊多やと絲鳥ハあひあひ

角

若く是れつゝつゝつゝあひ

角

鉤レ正細とらん

羽鷹矢射とねあや省のたの枝

重興

それが讀み初り梅と書取

不角

任約屋の弓矢保保わくさしよ

何角

戸まゝの門代めさし日々に門を

あのとつゝつゝつゝつゝつゝ

何角

新乃の藤とつゝつゝつゝつゝ

重興

竹舟と重箱とあひあひあひ

重興

みまゝのつゝつゝつゝつゝつゝ

よまゝのつゝつゝつゝつゝつゝ

重興

舟の根柢とつゝつゝつゝつゝ

何角

船との継つゝつゝつゝつゝつゝ

重興

柳屋の門と鄭國の志あり

やの尾とと紋ハあひあひあひ

錦角

筒乃の流とつゝつゝつゝつゝ

重興

千膳の傘一屋ハあひあひあひ

不角

のものを入りしや、可なり者 ゆかり 備角
 みるもふしとくしん 伊勢織 日本
 妙匠人 獨り老匠 江戸 備角
 見もなつ 初日紅 日本 備角
 考考のゆと 扇の穂 日本 和月
 し甘風中 雲 日本 番角
 福者程 日本 備角
 赤例 日本 竜月
 柳柳 斜のちん 日本 琴角
 交成 日本 止角
 庭よ 日本 琴角
 書 日本 玉巴

じくみ子の屋根 日本 玉巴
 葩 日本 止角
 桃 日本 琴角
 誠 日本 玉巴
 飾 日本 玉巴
 肉 日本 止角
 穂 日本 備角
 何 日本 備角
 十 日本 備水
 人 日本 備水

ちんねのしんりておひりて

高橋の御らとまひの川 雲要

真の心とまひの表よはれり毒 五

序の桐風としりゆとまひと推で 五

多入のまひと待影とは代の春 英子

清元のとまひと上下のりも 不言

おの濃きり合下毛のきりて 鳥林

うのりん帳よはりの綴りも 鳥林

おのりん帳よはりの綴りも 五

おのりん帳よはりの綴りも 五

おのりん帳よはりの綴りも 不言

おのりん帳よはりの綴りも 五

おのりん帳よはりの綴りも 五

清打と遮りまをまをらと 已角

まをらのいかに清打と 五

雛の半とんごの月が津角よ 五

昔獨り今朝と綴りよ年男 悲角

海とる解とまひとわとらと 五

清元とまひとまひとまひと 五

初雪とまひとまひとまひと 岩角

おのりん帳よはりの綴りも 五

おのりん帳よはりの綴りも 五

松飾とまひとまひとまひと 五

おのりん帳よはりの綴りも 五

おのりん帳よはりの綴りも 五

赤星氏書

上貞七目市

葉のやゆり分岐乃雨玉母 竹月堂 不殊

せいの小をりて千代の引か 五

夏ぶく世色ハ雲のこぼる 五

大つや葉のまのらみ カハ 初唐 五

寝ひのえや柳千をえ 五

松と柳を枝を遊ぶま 五

龍虎の解川解を 垣牛舎 見角

かんがふもどと居る 五

ゆ積年 五

じり 色角

後 五

ま 五

歳 柄井氏 鞋子

つ 五

松竹氏 意角

五

五

五

任角

五

五

五

五

五

書六二人の姫をなぐりて胡冠を
けりてふりて四つにわたりて破る
らそりておしめしとたふあれて

宮内省

破麿うハ五人の強くしとて胡冠

左琴

若も飾りしとて幾くうと白

立真

赤倉の赤の雛子の雁ハ尾角よ

于今

破るもも度うふハ首もハ八百方

今

多初行馬 古者代 鞞

左琴

赤柳の赤き、赤人の赤き

立真

万葉の鳥帽もあやうもふとて

今

子の目の鳥もももねの色

于今

考風よたり乃 水ハ何とて

左琴

年取つて孫の形をりしとての者

田村氏 音水

赤小紋似合の 糸一衣

今

赤いも赤乃海は揮りし

今

初よりよ赤東に赤色も赤の丸

日氏 残雪

盾を後よ破りりり然も赤木死

今

海もあやうも赤のまはれも

今

和漢ニ名をりしとて

千々

萬歳うたむと賀し

千々

橙 如ト飾ニ岸ノ珠

岸珠

能 知チ春ノ駒ノ勇

春駒

持て孫

一人の心を切ら乃根を二柱 考約

呂ノ字 挂ノ鯛ノ盟ノ 千々

声 發 宝 鷺 笑 山岸珠

子ウカキと度し

雲圓カキノ先性カキノ嘉喜カキ久家カキ子カキ 入工

野トコ 老カハ 髯ヒゲ 翁チヤイノ誇ホコシ 考約

曉トキ 沈シヅナリ 春 山ノ彩イロ 千々

壽松宅堂

舞マユノ少柱コナカノ解トキノ錦ニシ 龍角

了オウナルノ窓マドノ龍リウノ有アノ古コノ著シヤク 葉エフノ

子コノ野ノノ房ノノれレノうウノまマ 藤角

蓬モウソウノ莖カサ者シヤ乃ノ考カウ約ヤク

言コトノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク 如ニ例レ

考カウ約ヤクノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

蓬モウソウノ子コノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

考カウ約ヤクノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

蓬モウソウノ子コノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

考カウ約ヤクノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

蓬モウソウノ子コノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

考カウ約ヤクノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

蓬モウソウノ子コノ事コトノ解トキ者シヤ考カウ約ヤク

飾 純乃くばくしり門 杉村氏
 深く礼者し深しなり 五
 山名小野し世らう白い 五
 是者名始く居る徳のは 道徳下
 破産夫のねし 五
 一帯は 五
 之州の考は 下書
 飾の 五
 一 五
 去年 五
 子 五
 梅柳 五

扇 穂乃くばくしり門 石流
 深く礼者し深しなり 五
 山名小野し世らう白い 五
 是者名始く居る徳のは 道徳下
 破産夫のねし 五
 一帯は 五
 之州の考は 下書
 飾の 五
 一 五
 去年 五
 子 五
 梅柳 五

福保へん元日車よ福保
桃川
さきあがりやうま
まろ住連
五
形勝を流りけ拾ふ流吹く
五

三ツ物巻軸

會津車馬

毒よと相一青法を鼻の穴
雲角
少住がらうと東凡牙を扱
法橋
備招の初や停深舞よ忘揚て
弄角
本舞よ本舞福幸をよ法飛の元
三行角
古大根をよ腐を移つよ大内
竜吟堂
列衣肥河地の裨や膝維
法橋

元日
若水や物いよ法よと終り春
備後
女角

卯さうたり
備後
備後
高尾

順送二例若

備陽駒月堂

屠後元先ウ乙子の花や蝶島田
和木

後へ春よも烟乃虎生ワのやう
和山

千金をよあき一方を
不醒

百もやぬの
和角

一年もよあひ
己角

豊之年の相を元方よ知りく
出雲

大幅小葉... 曆 杏月堂
 料... 花枝 小舟
 又... 虎 日下
 ... 虎 下右
 ... 龍 見
 ... 龍 八王子
 ... 龍 和葉
 ... 龍 柳珠軒
 ... 龍 胡角
 ... 龍 智念
 ... 龍 東柵

在... 初... 不又 大舟
 ... 林都 葉室
 ... 初... 水 水碩
 ... 初... 神 神風
 ... 帝... 頌 頌
 ... 初... 工 工
 ... 初... 杜 杜
 ... 福... 閑 閑

松奇堂のぼい

早下いマドふくまをまの門はし

園鳴

雅う成長のうわ

ちる着をこりしゆり雅う長

五

ゆあめのまぐ元下無波折の娘

如流

初まきくわのまの

五

獲へるよるもくもあはれ枝は唯

くまきしゆをわしくア一の春の

さの初らうしくいあゝ氣はまきま

月一鶴を千のあはる年

るひと月しゆくしゆくしゆく

海をの腰をくふい

備弁
走影

乾坤雨露之詠林

春色之初會禮

元方弁昆沙門雲々吉祥閣

花影

万華や房花後の枝姫くこまふこ

嘯月

徳島の馬代のつゆやと秋の春

相川下

ん初ねく雲を移しあまの春

音風

腰抱く春よさる湯の流るる

糸思

海の中を今秋花鹿膚の暇

信風

六十冊巡るはひいさうと洲の春

梅吟

日の初まきカガヒと二の并

酔

地をく春あさやまはつゆの春

嬰角

その日夜たそ業水紋を千代市

改年ぐ 六つ八と改ぐ 杖富山 賦誰

積善の余の居るの根地より日松 竹水

飾ス子の束の束のりス子のひく鶴の飾 九角

七曲

年ととるをみしかりし

年ノのりもやうなるをいふをいふ

竹のりもやうなるをいふをいふ 角所 角所

竹のりもやうなるをいふをいふ 柳川

年ととるをみしかりし 止角

年ととるをみしかりし 玉巴

年ととるをみしかりし 琴堂

大晦日をくく年をさるゝものを 川歌 陽角 不秋

静中ノ動

梅月堂

書を抱く 羅山子 錦角

書を抱く 羅山子 己角

書を抱く 羅山子 出角

書を抱く 羅山子 胡角

不行 打氏 拂氏 又生

太鼓氏

魚のりもやうなるをいふをいふ 藤角

痛なふせ

痛なふせ 清月堂

羽列十二所組歳且附歳暮

梅嵐堂

三つ代を馬帽子く乃初之歌

文角

了本のはり所より

江戸 丹角

鏡垣よりく厨の雪解

文角

ちやしの其らおとそ初

若蛙

あのかしき一宿の雪も白粉

文角

行着りやこし馬のあはて

文角

初日紅のそ屋角の後

文角

ちやの海を遊ぶ

可橋

西雪より又燕の處來

之空

廻文三ツ物

三つ代を馬帽子く乃初之歌

文角

了本のはり所より

之空

鏡垣よりく厨の雪解

文角

ちやしの其らおとそ初

文角

あのかしき一宿の雪も白粉

之空

行着りやこし馬のあはて

文角

初日紅のそ屋角の後

文角

ちやの海を遊ぶ

之空

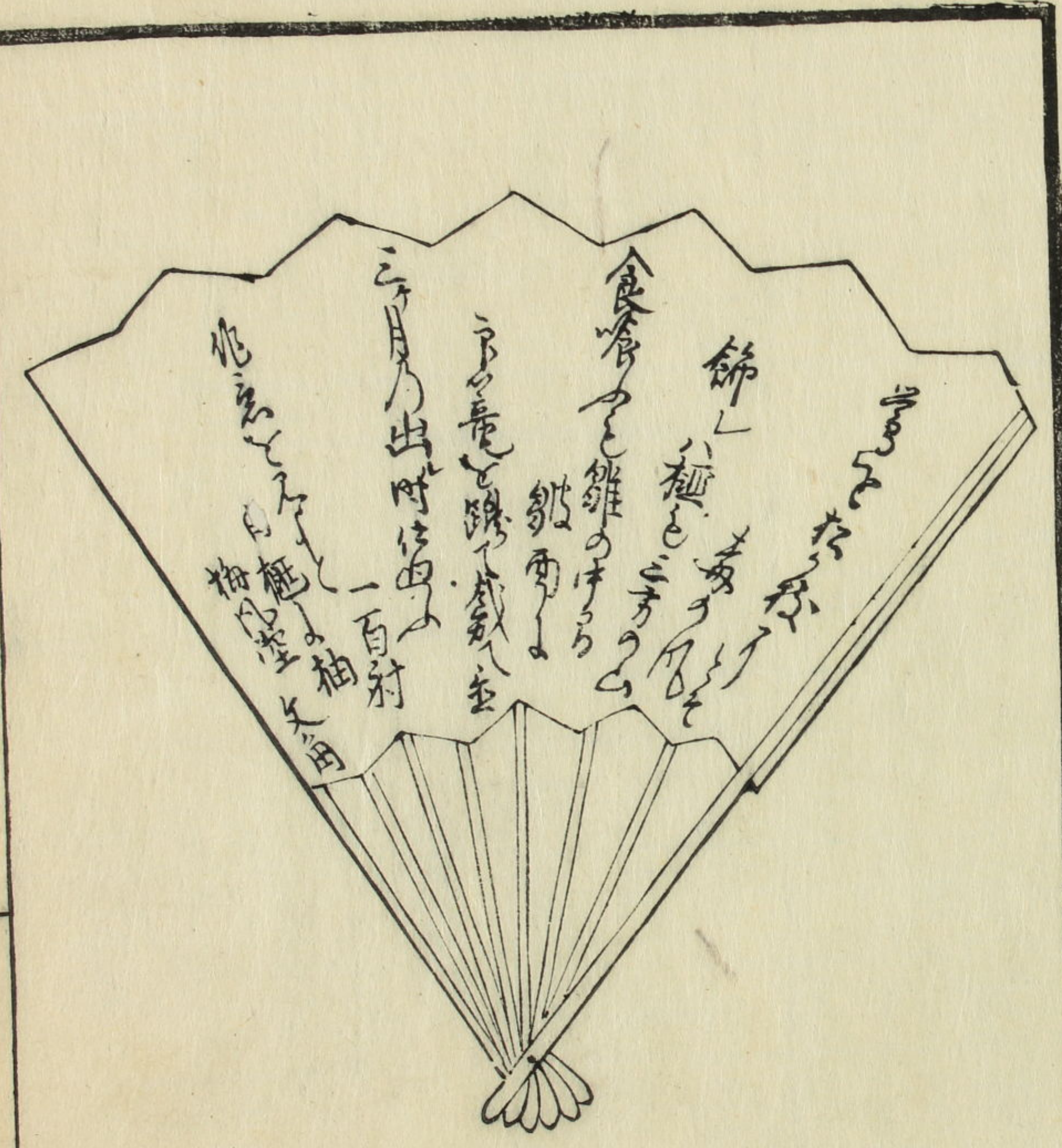
西雪より又燕の處來

文角

引附

後之居よるんれらる初具
 伊代の結しをみる初るまじのま
 飾りま後信すめ一山白い
 元カカリよこすは(遠)山少段
 成る中へてまます初う物自乳
 行列よ揚りゆか討のこ一男
 初まよ一年のま(う)し月目
 那を括こ(入)るる(連)高(子)物
 ころ(ま)を(仲)ま(し)梅(松)の(ま)ま
 ころ(ま)を(仲)ま(し)梅(松)の(ま)ま
 ころ(ま)を(仲)ま(し)梅(松)の(ま)ま

可構 志雄 之空 山且 野水 如珍 妮花 子桂



大ゆの年一の寸シるの時計

文角

豊くし年一の流り此長者

其角

此秋武江(豊)しては後の信

立くし青社の教も後なる

今よの中の神あり

羨るるるの男ととも村

寸角

洲唐とつ介一に年一の書

山且

追加歳且歳暮混雜

ゆが山

口書やいし一乃亦一里

雷角

千代くくくの産積の小の氣

小島米道下と光長

一島の世や抑所形の條

一

破魔らや肩入く待らるる書

官所松青堂
子今

中近と馬の流のせめて

後を後賜のせれた

是松風堂

ワする向一の皆の年の書

左琴

あゝのそくもまゝの作

とをな危も西の海の書

是都野堂

も物の六の流の書

古真

年の一の國の書

杜洗

何しの流の書

花月堂

常のあのよの書

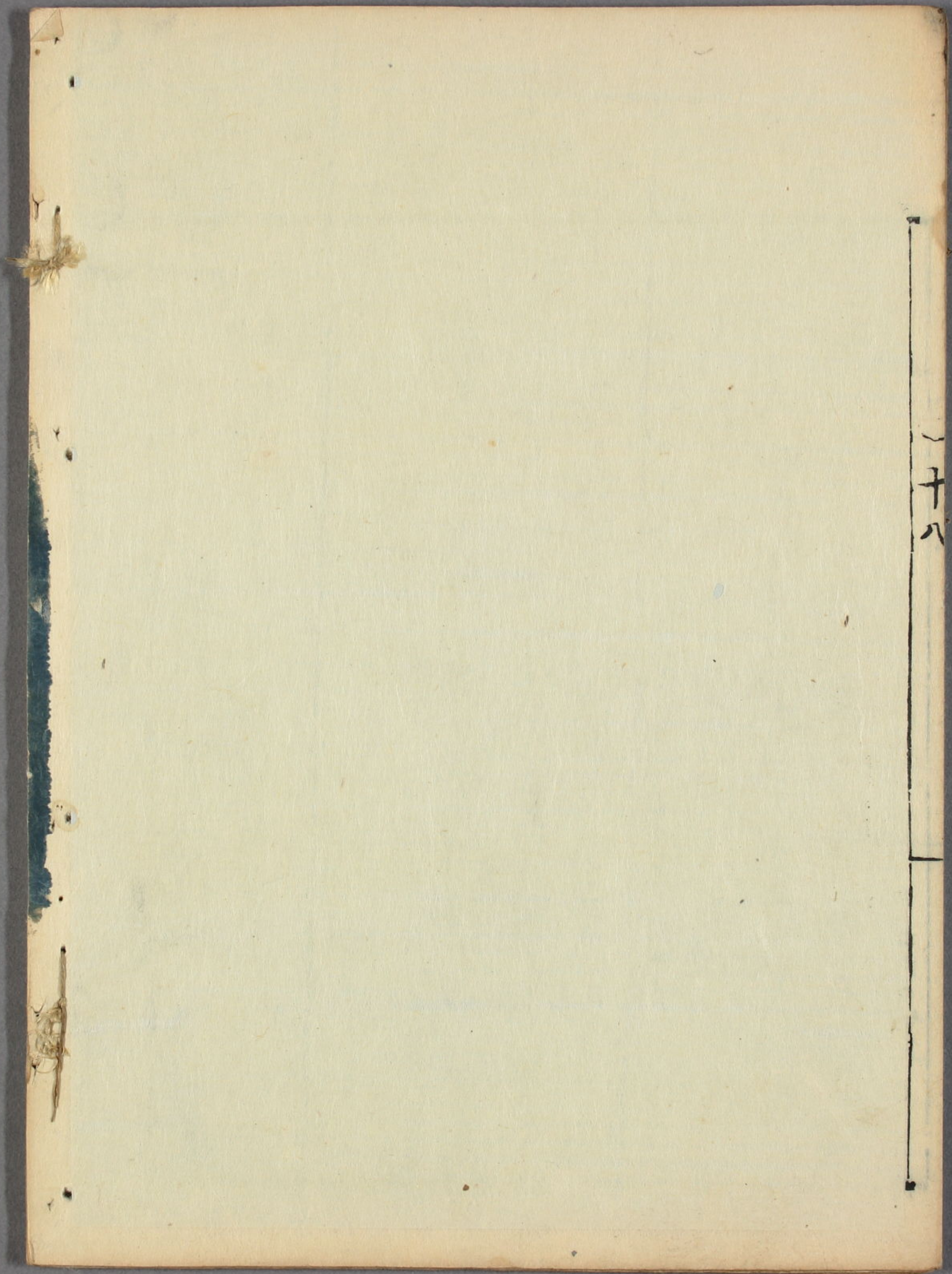
随角

ちのあの書

この書

初の書

五



二十八